



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ウェブ小説研究：ネット社会における模倣的創造文化の可能性について〔論文内容及び審査の要旨〕
Author(s)	酒井，駿太郎
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第16170号
Issue Date	2024-09-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/93314
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Shuntaro_Sakai_review.pdf, 審査の要旨



学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）氏名： 酒 井 駿 太 郎

主査 教 授 押 野 武 志
審査委員 副査 教 授 水 溜 真 由 美
副査 教 授 村 松 正 隆

学位論文題名

ウェブ小説研究——ネット社会における模倣的創造文化の可能性について

・当該研究領域における本論文の研究成果

本論文は、ライトノベルを源流として、独自の展開を遂げたウェブ小説（ネット小説）のもつ文化的な特質を情報化社会論やキャラクター小説論の成果を踏まえて明らかにすることを目的としている。ウェブ小説は、均質的な読者共同体を前提に、既存の類似作品によって形作られたコンテクストを強固に利用する二次的な創作を志向しながら、現代のネット社会における自己同一性に対する不安を可視化して問題の所在を指し示した批評的な文学として、その可能性を再評価したものである。

本論文の成果は、以下の三点にまとめることができる。

第一に、新たな研究領域の開拓が挙げられる。ウェブ小説の先行研究は皆無に等しい。ウェブ小説は関連コンテクストへの知識なしでは評価するのが難しく、かつその類型的な物語性については、批判に晒されてきた。そのような低評価を見直し、ウェブ小説を理論的に、また作品論の立場から個別具体的に論じることで、ウェブ小説のみならず、現代文化の一特質である二次的創作文化の表現可能性を、これまで触れられてこなかった角度から明らかにすることができた。

第二に、研究領域の拡大と同時に研究方法も見直し、従来のライトノベルにおけるキャラクター小説論の枠組みを拡充・応用した汎用性の高い理論構築を行った点である。異世界転生やループものに代表されるウェブ小説のキャラクターは、その名と内実を表す確定記述の束として捉えることが出来るが、同じことが可能な実際の人物や通常の登場人物と異なり、「もしも」の想像に基づく確定記述の差し替えや追記などが、極めて容易であるという特徴を持つ。確定記述の総体や固有名を通して確かな自己同一性が見出せない、という現代社会の自己像とも重なるアクチュアルなキャラクター論を展開し、現代の生の技法を追求することの出来る作品形式として、ウェブ小説を評価する新たな視座を提供した。このような視座に基づき、偶有性の感覚にまつわる現代的な生の諸課題についての描出や言及、処し方の模索が試みられたことを、個別具体的な作品論を通して説得的に論じた。

第三に、第一・第二の成果に関連して本論文は、ウェブ小説研究にとどまらず既存の諸パロディ文化と比較可能なメディア文化論であるという点である。情報面での大きな変化を受け、かつての文化と根を同じくするウェブ小説が新たなメディア環境をどう活用して新しい相貌を見せていくのかを示すことができた。従来のケータイ小説との創作方法や受容の違い、ネット社会出現以前からの長い歴史をもつシャーロック・ホームズの二次的創作との共通性と違い、あるいは、歌舞伎における「世界」という概念との差異など、従来のデータベースや物語消費に基づく文化受容が別様の技術環境との結びつきで受容者層と別様の関係を取り結んだものとして、ウェブ小説を文化的に位置付け直した。

・学位授与に関する委員会の所見

本審査委員会において、上述の研究成果に関して概ね説得的に論証されており、新基軸のウェブ小説研究として学術的価値があるものと判断した。

ただし、問題がないわけではない。ウェブ小説の全体的な特質を俯瞰するにあたって、本論文で取り上げた作品は、そのごくわずかに過ぎない。しかも、もっぱら偶有性の問題と関連付けて作品分析が行われており、それ以外の観点、もしくはそのような観点を必ずしも共有していない他の多様な作品への配慮が希薄であった。

また、分析用語の一部が、十分な定義がなされないまま用いられることもあった。とくに本論文で重要視する「偶有性の感覚」が、「承認欲求」とほぼ同義で用いられた箇所もあった。さらに、現代社会論として見た場合、偶有性を実存に関わる選択の問題だけではなく、出自に関わる今日の格差社会の問題としても敷衍できたはずである。

しかし、このような課題は、ウェブ小説の特質および成立のプロセスを通史的に、そしてジャンル横断的に論じつつ、多様な角度から再検討するという、本論文の対象領域の広さと射程の長さに由来するものであり、上述の研究成果をいささかも損なうものではない。今後、本論文で触れられなかったウェブ小説群に関する分析を充実させれば、それらの課題は克服され、文学研究のみならず、社会文化論としてさらなる研究成果も期待される。本論文は総じて、ウェブ小説論を今後展開していくにあたっての基礎的で原理的な論文となっていることは間違いなく、長期的な研究的意義を有している。

本審査委員会は、以上のような審査結果により、全員一致して本申請論文が博士（文学）の学位を授与されるにふさわしいものであると認定した。